

(14) 底びき網主要対象種生態調査

予算

大阪府資源管理協議会委託事業

結果の概要

府内の小型底びき網（石げた網）の重要漁獲対象種であり、近年不漁が続くシャコについて、小型個体混獲調査、着底稚シャコ分布調査を行った。

石げた網における月別の混獲個体数は 8 月に最も多かった。8 月以後には当年発生群とみられる小型個体の混獲がみられた。

シャコ分布調査では昨年に比べて 5 月から 8 月にかけて湾北部海域での生残が良好であったことが示唆された。また、8 月以降に当年発生群の加入が認められた。

調査方法

1. 小型個体混獲調査

石げた網における漁獲サイズ未満の小型個体の混獲状況を把握するため、2015 年 4 月～2016 年 3 月に月 1 回の頻度で投棄物のサンプリングを行った。石げた網漁船 1 隻を標本船とし、調査日の 2 網分の投棄物をすべて持ち帰ってもらい、シャコを選別し、個体数の計数、体長の測定を行った。

2. シャコ分布調査

2015 年 5 月、8 月、11 月、2016 年 2 月に大阪湾全域に設けた 20 定点（調査時水深 8.8～46.4m）で、2015 年 7 月、9 月、10 月には上記 20 定点のうち大阪湾東部海域の 10 定点（調査時水深 9.7～24.2m）で小型底びき網の一種である石げた網（幅 1.8m）を使用し、シャコの採集を行った。石げた網には着底後間もないサイズ（体長約 20mm）のシャコも採集できるように、魚獲り部（網の最後部）の網目の一片の長さが約 5mm のカバーネットを装着した。各点の調査では 2 丁の石げた網を曳網し、曳網時にはハンディ GPS で曳網距離を記録した。入網物は水産技術センターに持ち帰り、シャコを選別した後、個体数の計数および体長の測定を行った。各定点の採集個体数は曳網距離から 10,000m²あたりに換算した。

調査結果

1. 小型個体混獲調査

図 1、表 1 のとおり。

2. シャコ分布調査

図2~4のとおり。

担当者

大美博昭、鍋島靖信、辻村浩隆

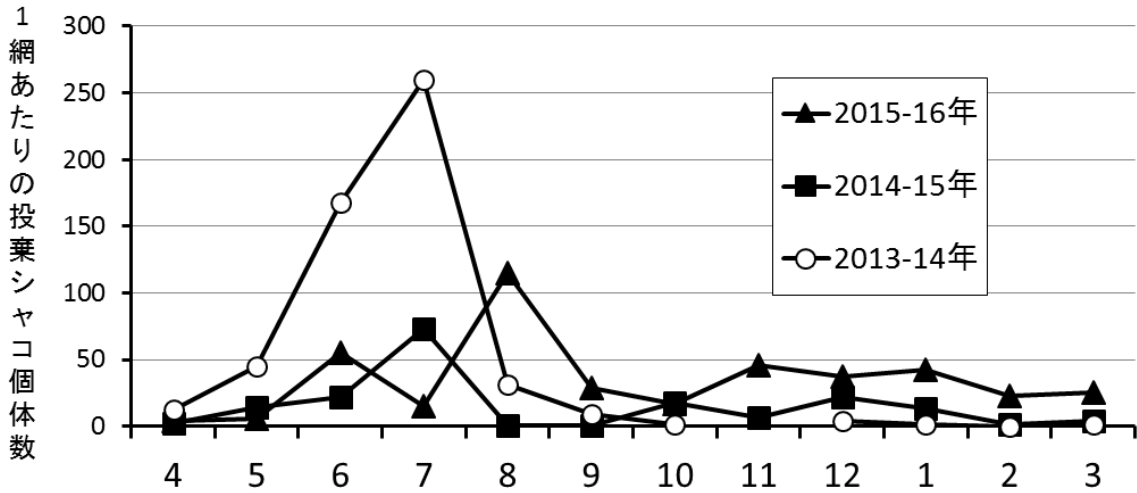


図1 標本船におけるシャコ小型個体の月別混獲個体数

表1 シャコ小型個体の月別体長組成

体長範囲 (mm)	2015年					2016年							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
以上 未満													
30 ~ 35													
35 ~ 40									1	1			
40 ~ 45					3	1						1	
45 ~ 50					1	1			1	1	1		
50 ~ 55	1				7			2	4	7		1	
55 ~ 60	3				2		2	12	7	2	4	2	
60 ~ 65	1	2				2	3	9	4	5		3	
65 ~ 70	1	1			3	3	3	14	5	4	3	8	
70 ~ 75	1	2	1			8	2	11	11	9		4	
75 ~ 80		1	3	1	2	4	1	7	8	8	6	13	
80 ~ 85	1		14	2	10	5	4	13	11	15	14	8	
85 ~ 90			15	4	28	4	5	9	8	17	8	7	
90 ~ 95			21	13	50	6	2	2	5	17	6	4	
95 ~ 100		1	25	3	57	5	5	2	1	3	3		
100 ~ 105			10		26	11	1			3			
105 ~ 110			7		8	5	2						
110 ~ 115			3		3		1		1				
115 ~ 120													
120 ~ 125													
125 ~ 130													
130 ~ 135													
135 ~ 140													
140 ~ 145													
145 ~ 150													
150 ~													

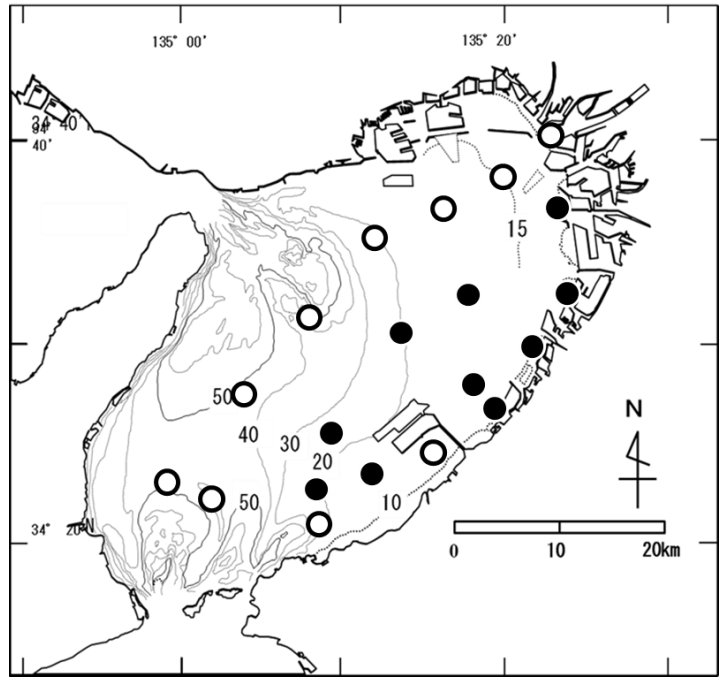


図2 シャコ分布調査定点
(7月、9月、10月は黒丸印の点のみで実施)

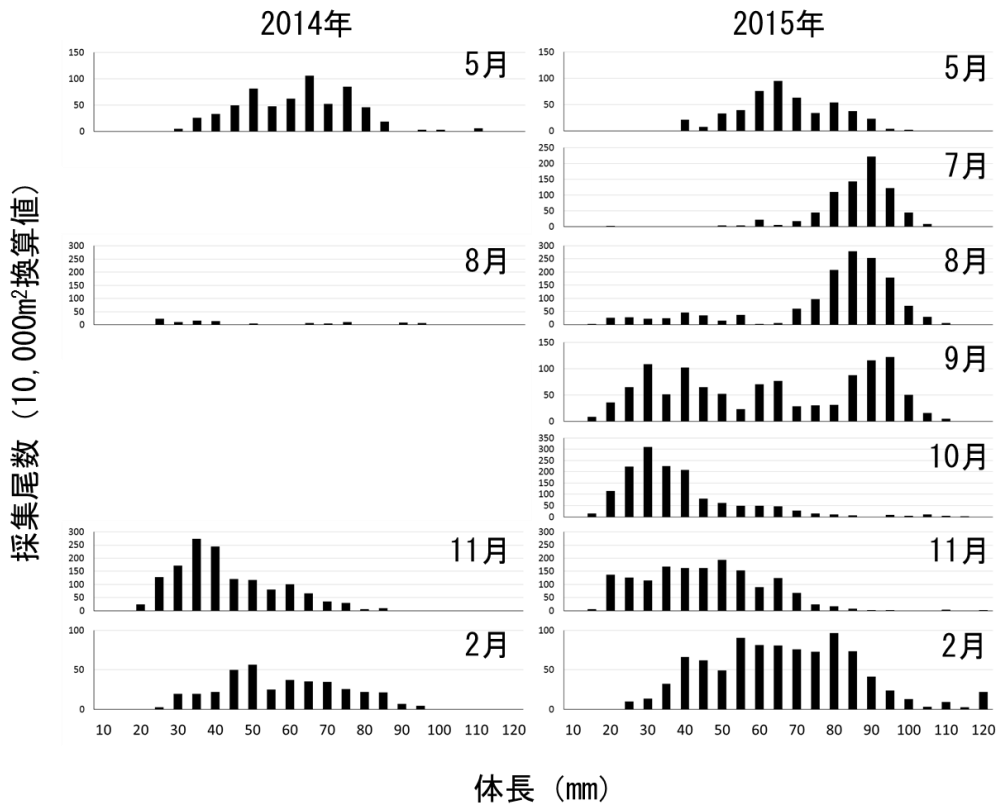


図3 分布調査で採集されたシャコの体長組成

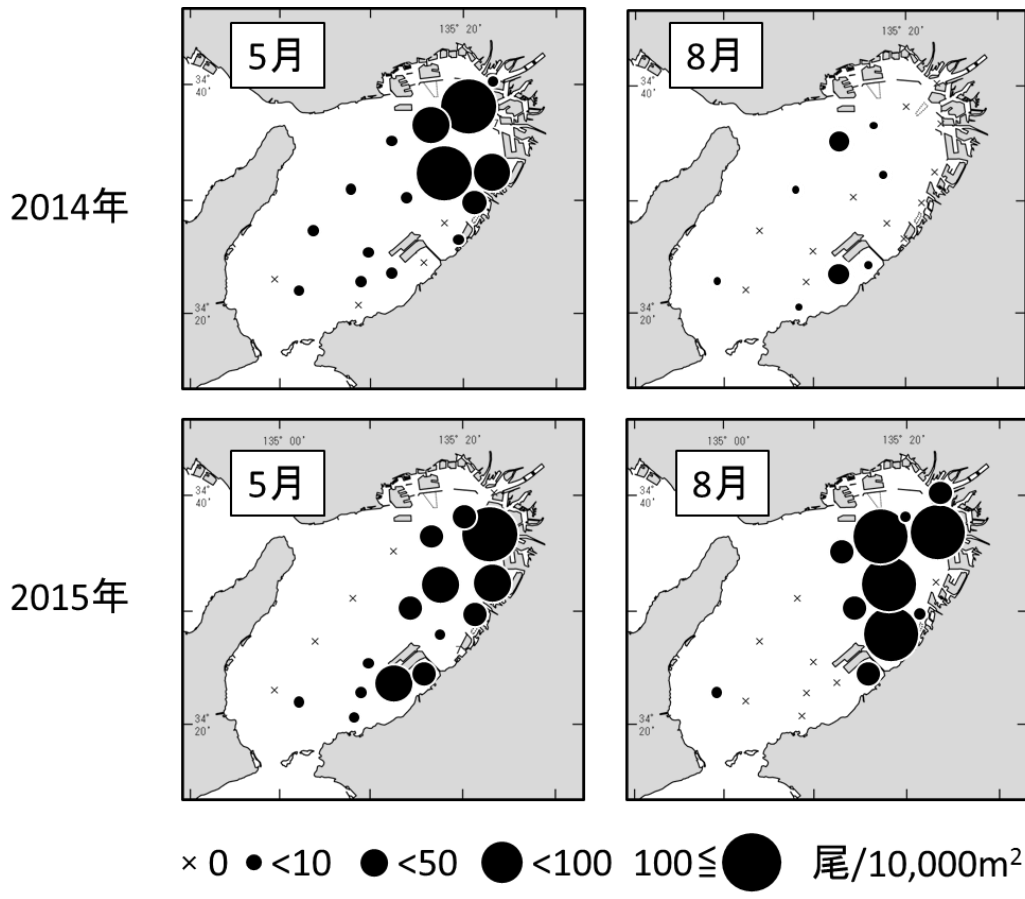


図4 シャコ分布調査における5月、8月の定点別個体数密度
(8月は体長60mm以上の個体における分布密度を示す)